

第 14 回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会 会議録

日 時：令和 7 年（2025 年）2 月 21 日（金）10 時 00 分から 11 時 07 分

場 所：公立甲賀病院 診療棟 2 階 講堂

出席者：

委 員 石井委員長職務代理、辻委員、三木委員、草野委員

病院組合 岩永管理者、松浦副管理者、奥村会計管理者、

中井病院組合担当次長、川崎病院組合担当局長、玉木事務局長

公立甲賀病院 辻川理事長兼院長、佐井理事兼事務部長、中尾事務次長、上嶋事務次長

陪席者：

甲賀市 山本総務部長、澤田健康福祉部長

湖南市 坂田総務部長、奥村健康福祉部長

公立甲賀病院 古川理事兼看護部長、中村人事課長、久米財務課長、久保管財課長、

久米診療支援課長、森口経営戦略室長

開 会

【委員長職務代理】

本日の出席委員は 4 名で、当評価委員会条例第 6 条第 2 項の規定により定足数に達しており、よって、第 14 回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会を開催する。

1. 公立甲賀病院組合管理者のあいさつ

2. 地方独立行政法人甲賀病院理事長のあいさつ

3. 議題

「地方独立行政法人公立甲賀病院令和 6 年度上半期の進捗状況について」

【委員長職務代理】

次第 3. 地方独立行政法人公立甲賀病院令和 6 年度上半期の進捗状況についてを議題とする。

病院事務部から説明の後、各委員より以下のとおり意見や質問があった。

【委員】

平均在院日数はどうか。

【病院】

11.5 日くらいである。

【委員】

目標はどれくらいか。

【病院】

今は稼働率、利用率を高めることで2期、3期を減らすということを一番の目標にしている。その結果、在院日数は10日ぐらいまでは縮まる可能性があるが、さらに縮めようとは思っていない。

【委員】

2期越えの割合は。

【病院】

3期の割合は、3割である。

【委員】

看護師確保で非常にご苦労いただいている。全病院から伺っていて、本当に人が足りない状況になっている。看護学校でも学生確保に非常に苦労されていて、本当に「みんな看護師になって」ということをいろんな所で言っている。小、中学校から言っても難しい状況だが、そういう中で工夫しながらコンサルタントを使って採用しているということを知らせていただいた。

採用コンサルタントの協力で採用されると定着率は高いのか。また、応援派遣の看護師たちは、どの程度の期間就いていただけるか教えていただきたい。

【病院】

採用コンサルタントには、人材確保の方法について指導いただくことと、仲介業者を紹介いただいて入職をしてもらうという形になっている。応募人数としては以前よりは増えている状況だ。就職していただいた後も、普通に直接雇用した看護職と同じぐらいの定着率かと思っている。来てすぐ辞めるということもないと感じている。

応援派遣看護師は、まずは3ヶ月契約させていただき、その後、3ヶ月から半年ごとの契約更新をしているが、大体は3ヶ月から半年ぐらいで次に移っていかれることが多いと感じている。

【委員】

仲介業者を通して採用された方が直接雇用の方と同じ程度に定着していただくのは、本当に大事なかなと思っている。看護師を確保するのが困難なので定着させるということを進めている。定着をしていただけて良かったと思う。

もう一点、長浜とか湖北・高島圏域は、外来患者数が減少していく圏域になっていると思

う。甲賀圏域は入院患者はそれなりに良いけれど、外来患者の減の報告があった。甲賀圏域では外来患者はこれからも増えていくという予測なのか。

【病院】

増えるということはないが、2040年まで横ばいと予測されている。患者が極端に減ってくるということは、今のところは当圏域はないと考えている。

【委員】

そうすると、収入としては維持されるというところか。

【病院】

そうである。

【委員】

病院の機能の強化というところだが、磁気共鳴コンピューター断層撮影装置、体外式結石破碎装置の稼働率はどれくらいあるのか。

【病院】

破碎装置の正確な数は手元にはないが、当然、毎週何人かの患者が利用される。腎臓の尿管結石の患者は、温暖化等によって全体的に減ってくる傾向がないということが言われているので、ニーズはあると聞いている。

MRIについては、2台のうち1台が老朽化して更新せざるを得ないということで今回更新した。ただ、以前に比べて少し早く撮影できるということで、1日当たりの検査できる数というのは、この機械に関しては少し増えたということを知っており、利便性にはつながっていると評価をしている。

【委員】

体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）だが、今まで胆のうがんの治療はESWLではあったけれども、それよりも一回でやるということで、経尿道的にカテーテルでの尿管結石とか、そっちの方向に行っている。ESWLの稼働率が減ってきているというのは、そういう治療の流れにあるので、それは余り問題ないと思う。

【委員】

昨年12月と1月に親族が入院したけれども、何回も医師からの説明を受けたということで感謝していた。

一つ、ATMがないと聞いたが、ないのか。

【病院】

2020年からATMが廃止されて、一番の理由は利用頻度から考えて、滋賀銀行から維持できないという申し出で廃止された。それから今、現金以外の支払い方法が普及してきた、そういうこともあるので復活せずにはしているが、現金で払える間は、ATMを置いておいて欲しいという希望は、時々あるのは事実である。講堂の隣にコンビニもあるが、その設置もお願いしたけれども、かなりの負担を当院に請求されるので、費用効果的なことまで考えると申し訳ないけれども、不便だがATMの設置をずっと見送っているという状況が続いている。

【委員長職務代理】

今日、朝来て患者さんがすごく多いなと思った。すごく病院の必要性を感じるころである。1年ぐらい前、テレビで地方で撤退する病院があって、その住民が叫んでおられるのを聞いたが、「消防・警察は赤字赤字と言わない、なんで病院だけ言うのか」と言っておられた。それは医療の公共的な面と事業的な面があって、事業税免除されていたりとか特殊な仕事、施設であることからそうなのかなと思った。後は、元副管理者がベットの休床なくして増加したらいいということで再開されたと思うが、この前の会議で、増やして人件費増えたら意味ないと元副管理者が言われ、失敗とは言わないけれど、あまりうまくいかなかったのかなと思っている。

給与を上げたり、業者も値上げを言ってくるような、そういったことも受け入れていると思うが、それはそれで地域の経済にも貢献するし、もちろん雇用とか働いてる方が潤っているのが事実。民間企業は賃上げしていると言っているけれど、若い人だけ上げて私くらいの方は全然上がっていないと聞くが、収入がないと中々上げるのは難しいところかなと思う。

後は、先程も理事長言われたけれど、診療報酬は厚生労働省が決めているので、そこでキャップがかかっている。総務省のコンサルタントも計画を頑張っても、縦割行政なので、その辺が難しいところがあると思う。他の委員も私も、自由診療やったらどうかと言ってたけれど、予防接種とか健康診断くらいしかできないとは思っている。コロナ補助金があった時は、それで収支が黒になったけれど、後はずっと6億円とかの赤字であると何年かで債務超過になるので、その辺が課題かなと思っている。

質問だが、甲賀看護専門学校の外壁等は改修されたということだけれど、看護専門学校は維持されていくのか。

【病院】

結論から言うと維持する方向で考えている。やはり大津や草津の方で専門学校あるいは大学を卒業されても、こちらへは地元でない限り、まず来ていただくことが非常に難しいと思うので、食べ物という地産地消にあたるように、地元で人材を育てて地元の医療に貢献していただく、この方針は当院も続けていかなければいけないと思っている。ずっと入学者数、受験者数が減っていたけれど、来年度40人定員のところ、37名まで増やすことができたので、そこはちょっと明るいところになっている。

ベット数のことだけれど、長年45床、看護師不足で1病棟を休棟していた。4東病棟を閉じていたが、コロナでそこを一部使ったりして、やり繰りしながら看護師の増加に伴い一昨

年の10月から25床を一部再開して、マイナス45床だったところがマイナス27床まで今現在は来ている。ただ25床増やした影響は非常に効果的に大きくて、この冬場の感染症の急性期の患者が増える時期、今までは1病棟使えなかったので満床で断らざるを得ない日がすごく多かったけれど、そういう日がだいぶ減った。それに伴う影響が大きく患者数も増えること、増やすことができたと考えている。ただこの1月、滋賀県、日本全国そうだったが、インフルエンザとコロナの患者がかなり増加して、クラスターのような状態になった時は、ベッドが動かせないので新規の入院はお断りせざるを得なかった。残念だけれど、現状では当院の限界かなと思っている。

あと賃上げに関しては、以前は公営企業法であったけれども、独法化してからは必ずしも公務員ではないので、と言いながらも殆どの独法化病院は、賃金に関しては人事院勧告に従った賃上げを行っている。ただ、非常に経営的にも厳しい状況があるので何とか職員に納得いただいて、ベースアップは人事院勧告に従ってやるけれどもボーナスのアップと地域手当については現状維持のままで延ばしていただくということで、何とか納得していただいたので、人勧通りに上げられるように業績が上がればということに納得していただいたところだ。

最後に自由診療的なところで、当院、健診センターがあるので分析すると、夏から秋はそれなりに利用者が多いけれど、季節の終わり3月そして4月、5月はどうしても利用者数が減るので、そこをどうして増やすかということについても委員会で検討し収益も増やしていく取り組みをしているところある。

【委員長職務代理】

県が県庁の横に看護大学を創ると言っていたけれど、それが頓挫したと聞いた。私も県の担当にそんなもの創るより看護師の待遇改善したり働き方を良くしてもらって、離職されない方が良いと言った。

【委員】

看護専門学校の方が30何人かの入学予定ということで、どの学校も今定員割れで、もの凄く厳しい状況の中、本当にすごく頑張られたと思う。地産地消じゃないけれど、やはり圏域内で育てて圏域内で頑張ってもらってということが大事だと思うので、是非その考えを維持していただけたらと思う。県の大津の場所に大学を創ろうというのは、大学生の定員割れ、最近では看護学部でさえ定員割れを起こすようになってきたというのが全体的な流れのようなので、既に京都から兵庫までの間にたくさんの大学ができていますので厳しいだろうとは思っている。高校の先生たちが専門学校より大学を進めるので、高校の先生たちの教育をしないといけないという話が出ている。大学ではなくて専門学校であっても、看護師としてのいろんな力量が高められるというアピールをしていきたい、ただ大学への志向というのは変わらないので、専門学校から大学へというようなことも今後は考えていく必要があると思う。

もう一点だけ、先ほど外来患者数のことを聞かせていただいたが、これから外来がもっともっと中心になっていく時代になっていくと思うので、外来の患者数、中々増えていかないということだが、外来の方もここへ来やすい病院として外来の方に対しての支援というもの

いろいろ工夫していただけると良いと思うので、今後また考えていただけたらと思う。

【委員長職務代理】

それでは本日予定されておりました議題は閉じます。他に委員から特になければ閉会させていただきます。

4. 公立甲賀病院組合副管理者のあいさつ

<資料>

- ・令和6年度地方独立行政法人公立甲賀病院上半期事業報告書